

帯広畜産大学同窓会報

第8号 平成13年7月 帯広市稲田町西2 帯広畜産大学内 帯広畜産大学同窓会事務局発行



第8号発刊によせて

会長 吉川 睦夫 (農S25)

会員の皆様、日々お元気で御活躍のことと推察しお慶びを申し上げます。先に申し上げております通り、来る10月6日(土)に開催する創立60周年の記念事業開催の月日が迫って参っております。私達、実行委員会の会合も何回か開かれ、具体的な実施の内容の詰めや準備の仕事を進めております。今回の記念事業は同窓生が推進の中心であるという原則でありますので、その規模とか内容はさきに行われた50周年の事業に比べて小さいものではありませんがそれだけに我々あの懐かしい「柏ヶ丘」ですごした者達にとりまして、実のある心の籠もった折り目に致したいものと念じているのは同窓の皆様の変わらぬ心かと存じます。

現在の母校は私が改めて申し上げるまでもなく、素晴らしい発展を遂げてきておりますが、その途次々々には様々な歴史があり、時代の進展に応じた変遷・革新が積み重ねられて今日に至っております。その時々居合わせて、母校の各時代の足跡を形造って来ましたが、縁あってこの大学で過ごした人達であります。その過ごした時を回顧して懐かしさに浸り、そのことから今までの自分個々の来し方を振り返り、また今の母校の姿から自らの行方が力づけられる、そんな風に私は学び舎の折り目・節目を考えてみたいと存じています。

その為には出来るだけ沢山の方々がこの日に集まって戴き、母校にまつわる様々について大いに語り、旧交を暖め、今後のさらなる発展や展望について夢見ていただき、大学や後輩を力づけて頂きたいのであります。その為に全国各地に設置されております支部より沢山の方々に参加をしていただけますような手立てを考えておりますし、またこれを機とシクラ会開催を計画しておられるとの情報も沢山伺っております。いずれに致しましても、この機会が母校の60年のお祝いであると共に我々同窓生一人ひとりととりまして、何等かの人生の節目としての意義あらしめたいものと念じて止みません。

「時の流れてゆく早さは、あたかも水の流れのようだ」という古人の言葉があります。昭和16年の大戦の最中に開校し、戦後から今日までの、農業・畜産の振興に研究や実践の実績により成果が高く評価され、期界の名門大学に成長し、また畜産・農業をはじめ社会の多方面で大活躍をしている人材を多く送り出した60年の歳月は、日高の山嶺から流れ出した雪が十勝川になったように、悠々として孜々、しかし過ぎてみると誠に早いものと実感致しております。どうぞ同窓の皆さん、母校の意義ある節目に満腔の御支援を切に期待しております。



大学改革の昨今

学長 佐々木 康之

帯広畜産大学同窓生の皆様には、ますますご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

毎年、同窓会報原稿の執筆依頼がくる頃になると、その直前に、国立大学長会議が開催されることになっていて、文部科学省の挨拶があります。昨年の会議では、全ての国立大学を何らかの型で法人化するという文部省の強い意志が、大臣挨拶として述べられ、驚き

をかくし得ませんでした。

本年は、また、国立大学の再編・統合を大胆に進め、国立大学の数を大幅に削減することを主旨とする挨拶があり、多くの学長にショックを与えました。文部科学省説明の骨子は大きく分けて3つあります。1) 国立大学の再編・統合を大胆に進める。2) 国立大学に民間的発想の経営手法を導入する。3) 大学に第三者評価による競争原理を導入する。

- 1) では、教員養成系などでは、規模の縮小や再編を地方移管も含めて検討し、医科大など単科大学は、他大学との統合を考え、また、県域を越えた大学・学部間の再編・統合を図って、国立大学の数の大幅な削減を目指すと言われています。
- 2) では、大学役員や経営組織に外部の専門家を登用したり、能力主義・業績主義に立った新しい教員人事システムを導入するなどして、新しい「国立大学法人」に早期に移行することを考えています。
- 3) では、専門家・民間人が参画する第三者による評価システムを導入し、評価結果に応じて資金を重点配分するなどして国公私立大を通じた競争的資金を拡充することによって、国公私立大の「トップ30」を世界最高水準に育成しようというものです。

昨年ともうでしたが今回の文部科学省の決意は固いものがあります。これをうけて本学は委員会等での検討に入りますが、大学改革もいよいよ正念場になりそうです。皆様方のご支援をお願いする次第です。



猶予なき学部教育体制の改革

副学長(総務・研究等担当)
佐々木 市夫

政治も経済も羅針盤を失った船のように、漂流する日本社会。少子化時代にさらなる難題となる国立大学の独立行政法人化。多くの大学が生き残りをかけて今、猶予なき改革に迫られています。本学も同じです。副学長の就任が決まって以来、こんな時期にどうみても低賃金だからであろう、知人からは同情されました。「大変な時にお気の毒です。」「忙しくなるから体に気をつけて。」などなど。

ただ救いは、若手教員の改革に向けた熱意とエネルギーが高まっていることです。これを頼りに改革に取り組んできました。その改革の針路は、研究に偏重しがちな現行体制から、フィールドと連携しつつ何よりも学部教育の充実を図ることだと考えます。平成13年1月から文部科学省と概算要求に向けた折衝を重ねてきましたが、今の時点(5月)で、事前折衝から正式折衝へと将来構想は大きく進展しております。今後、同窓の皆様のご理解をいただき、一步一步進めていく所存です。その構想の骨子は以下の5点です。

- 1) 学科と講座の改組: 獣医・畜産管理・畜産環境・生物資源の4学科から獣医学科・畜産科学の2学科へ。現行の獣医10講座、その他14講座を獣医学科4講座、畜産科学3講座へ。
- 2) 教育システムの改革: 全学的な基盤教育、共通教育をベースにして、展開教育(獣医学科1ユニット、畜産科学9ユニット)を配置する「アドバンス制」を導入。
- 3) 学部教育センターの設置: 学部教育の運営、教育評価を改善への支援、学生の学習支援と発達支援。
- 4) 畜産フィールド科学センターの設置: 附属農場を組織替えし、高度な生産流通機能を基盤にし、フィールドと連

携した実践教育・研究の強化。

- 5) 新しい大学意思決定システムの構築：新体制の大学運営を円滑に実施するため、運営戦略会議を新設し、多元的業績評価システムと合理的な人事・予算システムの導入。よろしくご理解とご支援をお願いします。



同窓会報に寄せて

副学長（教務・学生等担当）
鍋田 憲助

帯広畜産大学も創立60周年を迎えました。本学は、今までに北の十勝の大地に著実な足跡を残し、揺るぎない役割を果たしてまいりました。

しかし、この静かな学園にも、日本の社会の変化と連動した大学変革の大波が次から次へと押し寄せてきています。一つは、少子化にともなって、大学に進学する学生数が少なくなることがあります。もう一つは、国際化という波です。人も、知識も技術も国際基準にする。これは、一人大学が負える課題ではなく、日本の社会全体が対応していかなければならない問題でしょう。

国立大学の独立法人化という話題はもうお聞き及びと思いますが、今までのように、全ての国立大学が一律に国から財政的支援を受ける時代は終わり、その大学の果たす役割（例えば教育・研究、地域社会や国際貢献など）の大きさに応じて資金や人が分配される時代になります。そのため、大学はその存立をかけて、自らの存在の意義をアピールして行かなければならないのであります。また、将来は、進学を希望する学生は全てどこかの大学に必ず入学できる（ユニバーサル化）時代が到来すると言われます。魅力のない大学には、定員どおりの学生が集まらないという事態もあり得るし、その結果大学の倒産ということも起こりえることであります。今まで大学は、教育も研究もまた大学の運営も、教師中心主義で動いてきました。それでも、沢山の学生が自然と集まってくれていたわけです。しかし、学生がだれでも大学に入学できる時代になれば、学生や社会のニーズを満たす大学でなければ見向きもされません。これからは、私達教師が発想の転換をし、学生たちにとって大学を如何に魅力的なものにしていくかということを常に考えなければならないわけであり、本学では、その発想の下に、現在、教育改革と将来構想を鋭意検討中であります。

獣医教育の問題は、たびたびジャーナリズムに取り上げられていますので、その問題の本質は皆様ご存知のことと思います。この問題も国際化の波の一つとも考えられます。どの様な獣医教育を本学は用意するか、これから真剣に論議されていきます。いずれにせよ、ここ数年で議論される将来構想、教育改革は本学の次代を左右する重要なものと思っています。

☆ 学科などの近況 ☆

vvv 獣医学科 vvv

学科長 山田 純三 (S39 獣医)

空席になっていた外科の助教授に、十勝獣医師会会長で農業共済組合の家畜部長を勇退し、十勝清水の共済に勤務中でありました大星健治氏（昭和39年卒）を迎え、産業動物臨床の強化を図りました。獣医臨床放射線学の山田一孝講師が米国カリフォルニア大学に留学中です。解剖の助手に国立科学博物館で研究されていた佐々木基樹氏（麻布大学獣医学科卒）を昨年10月から迎えました。

学科の近況については、今年の新入生向けに「畜大便り」に掲載しました学科紹介の文章を下に転載します。

（前略）諸君は新聞等で「国立大学の独立行政法人化」という動きをご存知でしょう。この法人化を簡単に言うならば、民間企業の経営基準が大学に適用されると言えるかも知れません。このことは大学が企業で、原材料である新入生諸君

を教育という工程を経て卒業生と言う製品にして社会に出し、その製品が社会から高い評価を受けなかったら、大学は倒産する、という図式を容易に想起させます。幸いにも獣医学科は高品質の原材料に恵まれています。しかし、金の卵を預かり、結果として鉛の獣医師を輩出したのでは、我々の獣医学科という企業はすぐに倒産してしまいます。学生諸君の勉学意欲と教官の教育に対する情熱で帯広ブランドの立派な獣医師を共につくろうではありませんか。

国立大学獣医学科の再編・統合問題では皆さんをお騒がせしております。この現状につきましては紙面の都合で触れることは出来ませんが、インターネットホームページで <http://jvm2.vet.u-tokyo.ac.jp/kaizen/>（獣医学会のホームページの中からここに移動しました。）を開き、目を通していただければ、現状をご理解いただけると存じます。獣医学科はどのような形態になりましても、この帯広・十勝の教育研究環境を産業動物獣医学のために活用することを主張することが大切だと思っております。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご健勝とご活躍をお祈りします。

PPP 畜産管理学科 PPP

学科長 伊藤 繁

学科には、昨年から今年にかけて人事異動が相次ぎました。長年勤められた淡路先生は昨年10月に名古屋大学に転出されました。その後任には鳥取大学から仙北谷先生を迎えることになっています。10月に赴任の予定です。また、鈴川先生も10月に北海道大学に転出されることになり、その後任人事を現在進めております。昇任人事としては、澤田先生、種市先生、柏村先生が教授に、耕野先生は講師になりました。

今年度から畜大でも二人の副学長が大学運営にたずさわることになり、その一人に総務担当として佐々木先生が就任されました。今後のご活躍を期待しております。また、昨年度学科の総務委員を勤められた三好先生に代わりまして、今年度は松岡先生になりました。

すでにご存じですが、大学は今大きな転換期を迎えています。畜大も大規模な改革をすべく現在準備を進めております。「苦難のとき」を生き延びるための体制づくりであります。卒業生の皆さんが大学に来られたとき、「いったいあの学科、講座、研究室はどこにいったんだ」ということになるかも知れません。教官一同、「産みの苦しみ」を今ひしひしと感じているところです。今後とも、より一層皆様のご協力、ご助言をいただくことになろうかと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

AAA 畜産環境科学科 AAA

学科長 菊地 晃二 (S37 総農)

昨年の5月に、「帯広畜産大学将来構想検討委員会」が設置され、畜大の生き残りをかけた論議が真剣に行われてきました。現在、畜大の将来構想の骨格がほぼ出来上がり、文部科学省との折衝も順調に進み、概算要求の段階に入っているところです。

組織再編の中身が大きく、当学科も大きく変わろうとしております。しかし再編が大きくとも、それを認識され、発展方向に導いていく教員それぞれの気概にかかっているところです。

多くの学生が卒業され、今年も世の中に出ていきましたが、不況が反映して就職の方はあまり良くない状況です。

教員の移動については、本年は、停年退官される先生もなく、また4月以降採用の先生もおりませんでした。

教員の昇任については、生物生産システム講座の干場秀雄先生が教授に、同じく生物生産システム講座の岸本正先生が助教授に、また、作物科学講座の加藤清明先生が助教授にそれぞれ昇任されました。

なお、皆さんすでにご存知のように、本学は、今年創立60

周年を迎え、10月6日に記念式典や講演会が計画されております。多くの皆さんにお会いできることを楽しみにしております。

ccc 生物資源科学科 ccc

学科長 三上 正幸 (S40 酪農)

生物資源科学科は「科学」に名称が変更され、今年の3月に初めての卒業生が送り出されました。他学科に比べて留年者は少なく、60名中52名が卒業し、留年者はほとんど旧学科の「化学」の学生でした。

研究室関係ではまず、応用生命科学講座の環境生化学研究室には、4月から櫛 泰典教授が近藤泰男教授の後任で赴任され、中野益男教授と福島道広助教授の3人体制で教育・研究を担当しております。食品・生物機能化学研究室は大西正男教授、4月にアメリカ留学から帰国した小島道之助教授、木下幹朗助手の3人です。応用分子生物学講座の生物機能開発学研究室は増田宏志教授、大和田琢二助教授と得字圭彦助手、生物有機化学研究室は鍋田憲助教授、田崎弘之助教授と橋本 誠助手のそれぞれ3人ですが、鍋田教授は4月から、教務・学生等担当の副学長の要職になり、日夜忙殺されています。化学研究室の高沢俊英教授は学部棟3階の研究室で、学部学生・院生7人を預かり頑張っております。

生物資源利用学講座の食品工学研究室は中川允利教授が今年3月で停年となり、助手の補充が今のところできないので、石橋憲一教授と弘中和憲助教授の2人です。畜肉保蔵学研究室は三上正幸教授、関川三男助教授と島田謙一郎助手、酪農化学研究室は荒井威吉教授、浦島 匡助教授と中村 正助手で、それぞれ頑張っています。

3月卒業の学生の就職状況は希望者のほぼ全員が決まりましたが、女子学生の場合は遅くまでかかりました。

最後に、少子化あるいは独立行政法人化に向けて、現在畜大の生き残りのための改革を検討中です。教育コース、研究組織あるいは管理運営体制は大幅に変わります。14年度予算が承認されれば、今までとは全く変わったものになる予定です。詳細は来年の会報に報告できると思います。

LLL 共通講座 LLL

共通講座主任 森下 盈

人文・社会科学系、外国語、体育の教員が共通講座を組織して5年目に入りました。現在、将来構想検討委員会が発足してから、1年以上経過しておりますが、そこで練られた案が実現すると平成14年度から共通講座はなくなります。共通講座の各教員は畜産科学科内の講座に所属することになります。

共通講座にとって、昨年度最大の行事は、第50回東北・北海道地区一般教育研究会を当番校として開催したことでした。国・公・私立67の大学から約144名の参加を得ました。名古屋大学の池内 了教授が「リベラルアーツとしての教養教育」、北海道大学の小笠原正明教授が「大学の授業内容及び方法の改善」の2つの講演が行われました。2つの分科会のテーマは「教養教育の運営と体制」、「理科系・文科系大学における教養教育」でした。そこでは大学の8名の代表が話題提供の発表を行い、それを基に活発な議論がなされました。

最近特に、大学の教養教育（一般教育）の重要性が叫ばれています。先日も大学の評価委員会が開かれ、「学位授与機構」から要請があった「教養教育実情調査回答表」なるものを作成しました。

本学では来年度予定されている学部改組後の新体制の中で、現在、共通講座が中心に行っている教養教育を、その教授内容を拡張・変更することによって、全学の教員が参加して行おうとする動きもあるのです。

皆さんの受けられた旧教養課程の教育がご自分の中にとどのように生きているのでしょうか。同窓生諸氏の今後のなご一層のご活躍をお祈りします。

別科 JJJ

別科主任 高橋 潤一 (S48 酪農)

別科の近況について報告いたします。学生は、1年生（第42期生）が25名で、内女子学生7名、2年生（第41期生）は24名で女子学生5名が別科で学んでいます。スタッフは高橋潤一別科主任、熊瀬 登専任教官及び1年生については新進気鋭の畜産管理学科瀬尾哲也助手また2年生はベテランの畜産環境科学科岸本 正助教授が担当しています。

2年生は卒業研究の課題が決まり、それぞれ専門分野の学部教官の指導下で課題の調査・研究に取り組んでいます。最近の学生気質を観察していると、男子生徒の方が、所謂“shy”かつ“naive”に見え、他方、人数的には少数派である女子の方が、声も大きく、元気がある学生が多いように思えます。これは別科の学生に限ったことではなく、一般的な若者の傾向であるのかもしれませんが、多少のバラツキはみられますが、どの学生も卒業研究等でいくらかの苦難を経験して、修了時にはたくましく社会に羽ばたいていくようなようです。

ところで、新聞等の報道でもご存じのように、帯広畜産大学では独立行政法人化を前に、将来構想検討委員会を組織し、学部教育・研究の改組に取り組み、具体案について文部科学省と折衝を行っています。この中で、別科改革専門委員会が新たに組織され、別科の将来構想が検討されています。この構成メンバーには熊瀬専任教官も参画し、鋭意検討が行われています。別科主任としては、この専門委員会の検討に口を挟むことはできませんが、将来構想検討委員会のメンバーとして、専門委員会の答申に意見を述べる事ができます。十勝農業の発展と共に歩んできた帯広畜産大学草地畜産専修別科の伝統が、今後の組織改革の中でも生かされるよう努力する所存ですが、同窓生諸師・諸兄のご支援が大きな力になることは申すまでもありません。今後とも別科に対する暖かいご支援をお願いいたします。

最後になりましたが、同窓生皆様の一層の御活躍と健康を祈念いたします。

附属家畜病院

病院長 更科 孝夫 (S39 獣医)

家畜病院は地域へのサービスを通して、臨床獣医学の教育・研究に有効に活用されている施設である。近年の急速な臨床獣医学の発展、特にコンパニオンアニマル分野の著しい発展に伴って、臨床獣医師の卒後教育は以前にも増して重要となった。

コンパニオンアニマルや産業動物の研究・教育には主に健康動物が用いられてきたが、近年では動物愛護の観点から、自然症例が対象となり、その点からも本学病院は重要な役割を担っている。しかし、近年の産業動物医療の重要性を考慮すると、病院に搬入される症例だけでは不十分であり、附属農場を初め学外の自然症例を含めた臨床教育体験が必要であり、この試みはすでに実行されている。コンパニオンアニマルでも、来院する症例のみでは不十分であり、地域の小動物病院との綿密な連携で、より多くの症例の臨床教育が体験できるように努められている。

このように、厳しい状況下において本学病院の最近の運営状況はあまり良くない。産業動物の頭数と収入が低迷したとはいえ、平成12年では全国獣医系大学レベルでは上位から2番目と常識的に考えられないランクであったが、コンパニオンアニマルでは上昇しているとはいえ最下位から2番目であった。1頭当たりの診療収入は産業動物がコンパニオンアニマルに比べて高いことから、今後診療頭数増加への努力が望まれる。コンパニオンアニマルの頭数・収入が伸びても全国レベルに比べて数が低い理由は、小動物病院が大学周辺に増加し、症例が分散することによると信じられている。このような見解を全面的に否定するつもりはないが、大学周辺の小動物病院で診療頭数が同様に少ないという事実は聞い

ていない。本学病院の今の診療状況を改善するためには、病院の施設・設備の充実のもと、基礎系教官との綿密な連携・協力、さらに地域の農家畜診療センターおよび小動物病院との連携・協力体制の充実が必要であるが、最も重要なことは、臨床系教官が時代に取り残されないように、常に新しい知識と技術の吸収に努力し、クライアントに対して責任を持って獣医療に臨むと強く決意することの方が先決であると考えている。

原虫病研究センター

センター長 長澤 秀行 (S53 獣医)

平成2年に教官2人で発足した学内共同教育研究施設の原虫病分子免疫研究センターですが、平成12年に全国で17番目の全国共同利用施設となった原虫病研究センターは、現在、教授5人、助教授・講師5人、客員教授2人、ポスドク4人、研究支援推進員1人、事務員1人、大学院生10人、外国人研究員12人、学部学生17人で総勢57人になっています。平成12年9月には愛知県がんセンター研究所から横山直明講師、平成12年11月に北海道大学から杉本千尋教授が赴任しました。平成13年3月をもって見上 彪教授が退官し、その後任として、中外製薬創薬資源研究所から鈴木宏志先生がゲノム機能学分野の教授として着任し、センター研究課題の一つの柱である発生工学の研究分野で力を発揮しています。42歳の鈴木宏志教授が加わり、教授5人の平均年齢は47.4歳です。

研究課題、研究員数、実験機器の増加に伴い、平成9年に竣工した第2期増築施設が早くも狭隘となり、今年度は第3期工事となる増築工事が6月より開始されます。

来年3月には、発生工学実験室、分子生物学実験室、免疫機能解析室、遺伝子解析室、ゲノム機能解析室、ワクチン工学実験室、節足動物実験室、P3レベル動物実験室、SPF動物実験室、多目的ホールを備えた、現在の約2倍の面積を有する原虫病研究センターがお目見えすることになります。

獣医畜産領域で初の全国共同利用施設として、国内に留まらず、国際的に共同研究を展開し、世界の研究者から、帯広畜産大学に原虫病研究センターありと言われるよう、また、大学独法化に際し、国内最大の原虫病研究施設としてその存在をアピールできるよう、スタッフ一同、日夜、研究に邁進しています。

地域共同研究センター

センター長 宮本 啓二

当センターは平成8年に設置されてから5年を経過し、ますます社会からの要請に応えるべく、関係者一同は多忙な日々を送っております。スタッフは昨年と同じで変化はありません。

主たる活動である共同研究については、昨年の25件から今年は41件に飛躍的に増加しました。共同研究の主な内容は学術的には評価が低いかもしれませんが、現場や実用的には極めて意義深く、液体マルチの開発研究をはじめ実用に供されたり、特許申請につながる研究も現れはじめております。先端科学研究のように未来の国の産業をリードできるような何兆円産業興しの火付け役とは行かなくとも、地域の地味な産業造りに必要なローテクから進化を遂げるお手伝いに当面は徹したいと思っております。

従って地域の人々に対し開放的で、誰もが気軽に出入りできるようセンター開設以来の伝統として心がけております。しかし、このことは施設を管理する立場からすれば危険なことと背中合わせにあります。一例として夜間使用について、当直等の管理者を配置できない事情にあっても、共同研究を組む小規模民間企業にとっては研究に時間を割くことができるのは夜間に限られる実情を考えると、無視できません。

皆様にはすでに新聞報道等でご存知のことと思いますが、今年の1月に誠に遺憾ですが、心配していた事態が起こって

しまいました。火災事故です。このことで同窓生をはじめ多くの方々にご心配やご迷惑をお掛けしてしまいました。この紙面をお借りしてお詫び申し上げます。この次第は共同研究の実験装置からの出火で実験室内部を黒こげにしてみました。新聞報道をご覧になられた方々は、真っ赤な炎が窓から吹きだし、大火と思われたことでしょう。

私はあの写真を見て、愕然としました。放水による水蒸気が冬の寒気とサーチライトと印刷カラー調製不良とによる仕業です。今や新聞も真実の報道から程遠く、いかに読者の気を引くかが重要で、誇大広告と変わりません。情報化時代とは量的拡大とともに誤った情報も同様に広まることは、大変危険なことです。情報化時代にあっても正しい情報を取捨選択することは、きわめて困難なことです。米国が通信媒体を利用して世界中の情報をモニタし、あるキーワードを入れて必要情報だけを集めるシステムを使っているそうですが、今後正しい情報誤った情報の判断を助けるシステムの開発が必要になるかもしれません。当センターにはできませんが、

近年学生が情報に翻弄されて判断に困惑している状況を見聞きするにつけ、つまらない報告になってしまいました。

同窓生の皆様におかれましては、ますますのご活躍を祈念申し上げますとともに、当センターを是非ご活用下さいませよう重ねてお願い申し上げます。

附属農場

附属農場長 左 久

同窓会会員の皆様へ一年振りの附属農場近況をご報告いたします。昨年度は口蹄疫騒動などで緊張した対応を要求されたり、日照りの夏で草の質の低下と収量不足が懸念されましたが、一年を通してみると農場総生産額は前年を上回り、3年連続して前年比増となり、特に総生産の8割を占める牛乳生産量の増加は著しいものがありました。

今年度は、池滝主事が国際協力事業団の専門家として1年間の予定で中国に派遣されており不在です。現在は残りのメンバーがそのカバーに汗をかいているところですが、帰国後に体験を活かした活躍が期待されています。

農場では最近の時代の要請を反映して、堆肥の処理について幾つかの試験研究に取り組んでいます。その一つにバイオガスプラントの建設があります。農場で排出する家畜の排泄物をこのプラントに導入して発酵させてメタンガスを産出して、燃料電池を動かして電気を得ようとする計画です。すでに札幌周辺の私立大学における農場バイオガスプラントの稼働や、大手酪農家では稼働させているバイオガスプラントから得られた電気を電力会社に売るといった話などがあります。大学の農場としてこのような地球環境保全につながる研究に取り組むことは大変重要で意義のあることと考えております。

一方、農場では、今年初めての経験として、大学地域開放事業の一環として「ふれあい農場学習体験」に取り組みました。6月の祭りの時期に小学生とその親を募集して、展示を見たり乳牛や子牛を使って、搾乳や子牛の哺乳そしてアイスクリームの製造などを体験してもらいました。初めての取り組みで準備などに多大な労力を要しましたが、好天に恵まれた芝生の上で子供達が歓声を上げながら逃げる子牛を捕まえるようにして走り回る姿をみると、疲れも忘れる嬉しさが湧いてきました。一般市民親子に、地元にある畜産大学の附属農場はどんなことをしているのかを理解してもらう良い機会となりました。

今後、大学は益々社会貢献という面からの評価に晒されることとなります。本学発展に向けた附属農場の活動に同窓会会員の皆様による側面からのご支援をお願いいたします。



母校の創立60周年を
お祝いしましょう！

【静岡県広会】

幹事 梅原 靖寿 (S50 獣医)

私たち静岡県広会は、2～3年(幹事の怠慢によりもう少し間が空くこともある。)に1度、県庁所在地の静岡市で盛大なコンパを開催しています。それはもう、畜大の伝統である少々羽目を外しても寛大な心で見えてくれる飲み屋で行われます。

集まってくるのは、畜大獣医1期生の方から、新卒の女性(最近、女性の卒業生が多いような傾向です。)までさまざまですが、例年、集まるのは30名程度で、常連が多いです。この1期生の先輩からは、「来年は、生きていないかもしれないから、同窓会は毎年やれ。」と言われているのですが……。

静岡県在住の卒業生の正確な数は把握できていないのですが、その時の幹事のありったけの努力で、卒業生の新規発掘をして通知しています。現在、住所が確認されている同窓生は約100名ですが、通知を出しても新規の方の参加は少ないのが現状で、ちょっと寂しいです。

幹事がどの様にして決まるかというと、静岡県広会は、代表を世話人といい、現役公務員の1番の年長者が、長老の一声でその世話人に決定します。公務員が比較的数が多く、連絡もしやすいからでしょうか。そして、畜大の伝統よろしく、不幸にも、その世話人から選ばれた後輩が、幹事として文書発送から会場設営まで忠実に実行せざるを得ません。

実は、私も数年前ある先輩の命令で、幹事の末席を引受け、加えて「本部に報告をしておけ。」との指示を忠実に実行したため、以来、本部から原稿執筆依頼が舞い込むようになって困っているのが本音です。

そうは言っても、同窓会で、暫く振りに会った元気な先輩方と肩を組み逍遙歌を歌う時は、懐かしい畜大時代がよみがえりいいものです。

現在の世話人は、獣医昭和48年卒の倉重先輩(静岡県富士保健所勤務)で、この拙文を書いている私は、獣医昭和50年卒の梅原(静岡県下田保健所勤務)です。今年は、そろそろ静岡県広会の宴会開催の時期だと世話人は考えているようですが、私に「幹事をやれ。」との命令がこないことを願っているところです。若い人達がきっと努めてくれることでしょう。これを御覧になった方の中から、初めて参加してくれる方が増えることを期待しています。

最後に畜大のご発展をお祈りします。平成13年5月30日

【兵庫県同窓会】

事務局 長谷川 隆一 (S53 獣医)

兵庫県の同窓会活動も20年以上になり、規約等を定め正式に設立してから7年になろうとしております。把握している会員も100名を越え、総会には30名以上が集まり遠い帯広の思い出話に花が咲きます。

平成7年1月には、阪神淡路大震災が発生し、同窓会会員の安否が心配されましたが、住居の全半壊はあったものの、幸いに会員は全員無事でした。この際には、同窓会本部及び関東支部から励ましのお便りとお見舞いをいただき、同窓会のありがたさを強く感じました。まだ完全復興とはいえませんが、神戸の街も美しくなり、元の姿を取り戻しました。本当にありがとうございました。

兵庫県に転動又は転居されたかたは、事務局までご連絡をお願いします。

兵庫県事務局連絡先 電話 078-914-2878 長谷川 隆一

今年の10月には、畜大が産声をあげて早60年が過ぎ、記念の催しが行われるとのこと、まずもっておめでとうございます。当支部は、昭和30年頃から数名の先輩の方々が、折に触れて「飲み会」を開催されていたそうですが、昭和45年頃からはより多くの同窓生に声を掛けて、1～2年に1回程度飲んだり喋ったりの集まりが続いておりました。平成8年に畜大同窓会滋賀県支部として正式に登録して頂きました。現在の支部会員は30名程度で、年輩の方はほとんど獣医学科卒ですが、若い方は他の学科卒が多くなっています。

支部の活動ですが、年に一度の総会(飲み会)も事務局の都合もあって定期的な開催もなかなか出来ていない状況でそれほど活発ではありません。今年は、8月頃に奈良県在住の方々と合同の1泊の総会を企画しています。数年前にも福井県の方々と合同で総会を行い、福井の美浜原子力発電所の見学をさせていただいた事もありました。また、琵琶湖畔での総会には福井の方々にもおいて頂くというような関係を続けさせてもらっています。今後も、近隣府県の方々と合同の懇親会をもって、親交を深め、暖めていきたいと考えています。

さて、滋賀県には、「琵琶湖」を真ん中にして、周りを山野で囲む風光明媚でかつ歴史的にも重要な史跡が数多く残っている所であります。近年、琵琶湖に住む魚たちは在来種が減少し、外来魚の増加現象が進んだり、水生植物や水生生物を取り巻く環境も変化してきています。400万年の記憶を持つ、そして1400万人の水瓶の「琵琶湖」の存在によって、県民の環境に対する意識も高く、水に対する環境問題への関心はもとより、環境全般にわたって各地域、各団体等において種々の取り組みが行われています。本県の畜大畜産環境科学科の卒業生も勉学を結実させるべく一杯の努力傾けて仕事を続けられています。また、野生鳥獣が数多く生息する本県では、獣医学科の卒業生が傷病鳥獣の保護にも努力されておられます。その他の同窓生も公務員や民間の職業人として十勝での懐かしい思い出を胸にそれぞれ元気に頑張っておられます。以上が滋賀県支部の簡単な紹介です。10月の記念式典を楽しみにしながら現況報告を閉じます。

【同窓十勝会】

会長 高田 薫 (S31 総農)

母校創立60周年の記念式典の10月6日も間近に迫りました。地元支部として記念事業実行委員会に加えていただき、節目にふさわしい事業をめざし努めています。

60周年は、人生では還暦ですが、母校にとってはむしろ成人式と踏まえ、新たな発展充実への契機でありたいものと期待しています。去る2月5日、田島重雄先生(東京都町田市在住)が名誉教授会出席のため来帯されたのを機会に、役員会の開催と併せて有志の参加を得て「田島先生を囲む会」を開催しました。話題は、別科の将来にかかわる問題が中心になりました。特に現職の農業関係校長先生方から別科について多くの意見をいただき、別科の農業後継者教育への強い関心と期待に心強く感じました。

国立大学は、独立行政法人化問題をかかえ、しかも母校は「獣医学科の統合・移転問題」や「別科の将来の在り方」等の課題にも取り組まれています。いずれの問題も地元同窓会にとっても最大の関心事です。

別科は、母校が全国の大学に先駆けて農業の理想のもと、農業後継者の育成を地域に根ざす大学教育の一環として進めたことは、地元の高い評価を得てきました。別科の地元出身者が多いばかりではなく、地元根をもち、農業経営者は勿論のこと、農業関係機関、団体をはじめ各界で活躍しています。

現在、高校卒業者の農業後継者養成機関として農業大学校、農業特別専攻科等が設置されていますが、大学の持つ力を十分に活かした別科の役割と期待は、今後増々強まるものと思えますし、地元同窓会としても期待しています。

幸い、母校は「将来構想検討委員会」のもと大学の総力を結集して「十勝に根を張り未来を拓く将来構想」に取り組まれておられることに、地元支部として敬意を表しますとともに研究の成果に大きな期待を寄せています。

【大阪支部結成報告書】

世話人 甘利 靖男 (S42 酪農)

大阪は畜大卒業生の多いところでありながら同窓会支部がありませんでした。個人的に、学年クラス別に、クラブ同好会別に、或いは研究室単位で、時には本学の先生の来阪に合わせて個々に同窓会が開かれていました。また、兵庫県や滋賀県の既に活発に活動されている県支部の総会に参加している方もあります。その様な場で必ず出るのは「大阪にも支部を作らなアカンワ」と言う言葉です。恐らく、それらの集まりの中で支部を作ろうと試みられた方は幾らも居られたと想像します。因みに、私自身も5～6年前、仲間20人前後の同窓会をお世話させて頂いたことがあり、それを基盤に大阪支部に、と思ったことがありました。また、兵庫県支部に参加させて頂いた時に幹事の長谷川さんに京阪神合同の同窓会を、と相談もしたことがありました。しかし、私の場合は結果として事を遂げるに至りませんでした。

昨年の暮れに日頃から何彼とお世話になりお付き合いを願っています大橋 進先輩と大阪支部に付いて話をしていますと「こう云う事は、言い出した人が自分でやらなアカンワ」と大橋さんに言われました。年が明けて、日頃から「大阪支部を作れ！」とハッパをかけられている金谷一夫先輩からも「60周年の記念に大阪は何もセイヘンノか」とキツイ一発。毀誉褒貶は人の常、それでは「3人でやりましょう」と衆(?)議一決、行動を開始。

同窓会名簿(平成12年11月)から大阪在住か通勤者を機械的に選びました。この作業で、奈良 博さんが随分苦労されました。また、松本宗明さんにも協力を依頼しました。その結果、大阪には198人(名簿外で6人、計208人)の対象卒業生がいました。大橋さんがそれら全てを集計されて基礎になる名簿を作成されました。

この名簿を元に「総会の日時と場所」を決める段取りになりました。日時は4月8日(日)午後3時と決まりましたが、場所は出席者数の見積及び出席者の利便など非常に難しい点があり難航しました。そこに物知り顔の男が「200人なら返事が返ってくるのは100人、その内出席者は40人」と断言しました。彼によるとマーケティングで「2-6-2の理論」と云うのがあり、その理論によると200x0.2で40人が出席するのだそうです。その打合せの帰路、「宴会予約歓迎。40名様迄」のチラシが目に入り、場所も駅前ときているので即決定。かくして総会の当日となります。因みに案内者総数200、内、回答があったもの98名、その内出席者42名が内訳です。(余談ながら、quite characterを自負する畜大OBにしては、極めてstandardな結果で、理論に普遍性があるのか畜大OBが見掛けより正統派なのか興味のあるところです。)

その間、198名への案内の往復葉書の作成から印刷、発送までの作業を大橋さんが一人でされました。また、大橋さんは大阪支部ホームページ作成に当っても増戸義典さんと協同で立ち上げられました。まさに「自分でやらなアカンワ」と言われた事を実践されました。「その言やよし、その行いの至らざる」ことの多い世の中で、大橋さんの行動には畏敬の念を覚えます。恐らく、大橋さんが居なければ大阪支部は未だ存在し得なかったのは確かです。

かくして5月8日、帯広畜産大学同窓会大阪支部第一回総会を迎えました。席上、金谷一夫先輩が満場一致で会長に選任、各年代別幹事、女性幹事、ホームページ担当幹事が同時に選任されました。

金谷会長は、こと帯広となると「あれが60過ぎた孫が居るオッサン」とはとても思えない童顔になり、7～8才の子供の様に目をキラキラさせ、口角泡の例えの通り、一心に語る稚気愛すべき人ですが、日常は大阪でも一番商売の厳しい立売堀で会社を経営されているだけに世情に聡く、究極の「大阪商人」で飾らず、威張らず、アホ振っておられますが、読心術の名人で人情の機微に篤く、その隠れた気配りには常人の計り知れない奥深さが有ります。

この様に帯広畜産大学同窓会大阪支部は、建学60周年と云う時と金谷、大橋と云う人、まさに時、人を得て事の成る故事の通りに設立に至りました。

世話人は次のように決定されました。

大橋 進 (S38 獣医)、甘利 靖男 (S42 酪農)、奈良 博 (S44 獣医)、田内 博 (S47 化学)、鎌田 正人 (S50 化学)、依田 知子 (S56 獣医)、増戸 義典 (S59 生産)、羽倉 正 (H6 環境)

会長：金谷 一夫 (住所：連絡先に同じ)

支部連絡所：大阪市西区立売堀3丁目5番24号(会長宅)

電話 ☎ 06-6531-2135; FAX 06-6531-5362 以上

【宮城県支部】 (仙台の寒い夜の集い)

会長 佐々木 敬功 (S34 獣医)

今年は、十数年振りの寒い冬であった。宮城県支部会の総会がこうした寒く一日中小雪の降る2月19日午後6時より仙台市内の中心部のホテルで開催された。

支部会員は84名と大世帯になったが、例年になく厳冬の最中、しかも悪天候の日曜日とあって出席者は四分の一の21名であった。

仙台市内に住居を持ちながら県外に勤めている人、第1の職場を定年退職し県内に戻った人の参加もあったが開始時間の遅いせいもあり、年輩の方々や若い方々の参加が少なく非常に残念であった。

今回の総会で支部会長の交代があり、十数年も支部会長として活躍賜った、安部優支部会長(獣・31)が退任し、後任に佐々木敬功(獣・34)が選任された。

総会では会員数が増加しているにもかかわらず毎年20名前後しか集まらないことなど今後の対応についての話し合いがされ、出来るだけ多くの方々に参加してもらう用などを重点に次のことを決め、会の運営に当たることとした。

- (1) 幹事を卒業年代毎に置き、庶務会計1名を庶務1名、会計1名とする。
- (2) 先輩方は70歳後半の会員も多くなるにつけ、不幸時の対応(花輪・弔辞など)について。
- (3) 都合により不参加の人には今回の会の取り決めや懇親会の様子を会報の形で送る。
- (4) 開催時期・時間を検討する。

特に、参加者一人一人から多くの仲間が参加できるような提言や意見の発言をいただいた。各会員には常日頃声がけをしてもらうなど次回は参加率50%を目標とし、懇親会も和やかなうちに3時間があつという間に過ぎ全員で畜大追道歌を声高らかにうたい閉会となった。

帯広畜産の獣医学科の存続か、統合かの課題を抱え、還暦を迎えた総会及び記念事業が盛会になりますことをお祈りいたします。

【青森県支部】

支部長 諏訪内 博之 (S20 獣医)

青森県支部の近況ですが、ここ暫く会合を開催しておりませんが、今年中に開催したいと考えております。

支部会員は、それぞれの職場で大活躍しております。

さて今回は、私の処から2キロ程離れた、青森市三内丸山遺跡を紹介いたします。

青森市三内丸山遺跡は、江戸時代から知られている有名な

遺跡です。これまでの発掘調査で縄文時代前期から中期（約5,500年前～4,000年前）の大集落跡や平安時代の集落跡（約1,000年前）中世末（約400年前）の城館跡の一部が見つかりております。

特に縄文時代の大集落跡からは、たくさんの竪穴住居跡、大型竪穴居跡、掘立柱建物跡、大量の遺物がすてられた谷（泥炭層）大規模な盛土、大人の墓、子供の墓、土器作りのための粘土採掘穴などが見つかりました。

また、谷から見つかった動物や魚の骨、植物の種子や花粉からは、当時の自然環境や食生活など具体的に知ることができます。

さらに、ヒスイやコハク、黒曜石は遠方との交易、漆器は専門的な技術をもった人々がいたことを物語っております。

三内丸山遺跡は約1,500年間継続して営まれ、しかも定住生活をしており、その間計画的に共同作業で様々な施設が作られたものと思われます。

このように、三内丸山遺跡は縄文時代の人々の生活を具体的に知ることができる貴重な遺跡で平成9年3月に国の史跡に指定されました。

青森県では、縄文時代「むら」を体験できる公園として三内丸山遺跡の整備を進めています。

もし青森方面に来る機会がありました際は、是非一度、青森市三内丸山遺跡をご見学される事をお勧めいたします。

【鳥取県支部】

支部長 朽木 広 (S23 獣医)

その1：広島、島根、鳥取3県支部合同同窓会

日時 H12年10月28日（土）～29日（日）

場所 鳥取市丸茂旅館

合同同窓会は、地元の企画も良く、久しぶりにお会いできて話が弾み2次会では12時過ぎまで語り合うなど、大変楽しい、しかもやっぱり北海道の帯広という北の地で数年間を過ごしたという同窓のきずなを思わせる有意義な会となりました。

翌日の鳥取大学乾燥地研究センターの訪問は、これまた我々の知的好奇心を満足させる大変有用な見学となりました。また次の合同支部同窓会を何時か、どこかで楽しくやりましょう。諸兄姉のますますのご発展を、お祈り申し上げます。（広島県支部長 橋本 秀夫氏のお便りから）



広島・島根・鳥取三県合同同窓会のスナップ

その2：五銀会山陰の集い（畜大23年卒業生の会の呼名）

日時 H12年10月5日（木）～7日（土）

場所 5日皆生温泉ホテル清風荘 6日玉造温泉玉井別館

この度の五銀会 山陰の集いには大変お世話になり更に予期しない震度6強の鳥取県西部地震を松江城天守閣で遭遇し、印象強い山陰の集いでありました。御地は神話の国、歴史が豊富で私は勿論参加した皆も大変有意義な「山陰の集い」であったことと思います。2年後の札幌開催には、ご夫婦で参加されることをお待ちしております。

（五銀会札幌支部長 吉川 清氏のお便りから）

【札幌同窓会】

会長 毛利 正秀 (S28 獣医)

昭和16年春、日本国中が軍事一色の時、国立唯一の獣医系専門学校として帯広高等獣医学校が設立されました。以来、戦前、戦後の初期にかけて帯広獣医畜産専門学校、帯広農業専門学校、帯広畜産大学と名称が変わりましたが、幾多の苦難を乗り越え、常に発展的変遷を重ねて参りました。地方で光り輝いている大学の一つとして各方面から高い評価を受け、今日の隆盛を築いた事、同窓生の一人として誠に喜ばしく、誇りに思っております。

帯広畜産大学が本年創立60周年を迎え、来る10月には記念事業を計画されている由、佐々木康之学長先生、吉川睦夫同窓会長始め実行委員の方々のご努力に敬意を表します。特に昨今の大学内外の諸情勢が厳しい折、大変ご苦労様ですがこの記念事業が盛大に挙行されますよう、心から祈念申し上げます。

さて、札幌同窓会ですが今年は既に幹事会を3回も開き、本年度総会の開催を次の通り決定致しました。

第20回帯広畜産大学札幌同窓会総会

日時：平成13年8月10日（金）午後6時より

場所：ホテル モントレ札幌 中央区北4条東1丁目

会費：7,000円

申込先：北海道酪農畜産協会 迫田 (TEL: 700-3622)

帯広畜産大学札幌同窓会は札幌市及び石狩管内に居住し、又は勤務先が札幌市とその近郊にある同窓生で構成されています。会員数凡そ1,600人、毎年転出入が激しく事務局は会員の掌握に苦労しています。今回の総会通知が洩れている方、特に卒業年次の若い方には是非参加の連絡をいただきたく、この紙面を借りて案内いたします。



札幌同窓会のスナップ写真。

《江別同窓会より》会長 紺野 清(農学 S25) 会員数40名
江別同窓会とは他の地区の同窓会と趣を異にしております。正会員は江別市に居住し、第二の人生が始まる60歳以上としております。平成7年設立、同窓会旗を作成しました。残念ながら既に6名の方が亡くなり弔旗として掲げました。

今年の例会は6月2日開催し24名が出席しました。年齢、住居に近いせいか交流が良く、ゴルフ、パークゴルフ、囲碁など楽しんでいます。

【関東同窓会】

会長 守田 貞公 (S28 獣医)

平成13年度関東同窓会は、さる平成13年6月23日（土）午後6時から、東京都内の銀座ライオン7丁目店6階宴会場で行われました。この会場は、今年で3回目。懇親会のエンターテインメントとして、若手のプロによる歌曲のコーラス、

ソロ、それに楽器のソロ演奏などが聞ける数少ない場所です。さて、総会は渡部憲嗣幹事長の司会で始まり、守田貞公会長から、今年は昭和16年(1941年)母校が帯広に創設されて以来、満60周年を迎える意義深い年であり、母校においても10月に記念行事を計画しておられることと、一方では数年来にわたる他大学との獣医学科の統合という問題に対して、母校が獣医学科存続のために自助努力の動きを開始されていることなどを挨拶として述べました。引き続いて議事に移り、「第1号議案：平成12年度事業報告」から「第4号議案：平成13年度予算案」までを異議なく採決し、田中正三副会長が閉会の辞で締め括りました。

その後、宮崎日出男先輩の音頭で乾杯を行い懇親会にはいりました。旧友との語らいの時間を十分にとってほしいとの一卒業生の希望もあって、今年の懇親会は、来賓の挨拶、プレゼンテーションなどを一切省くことにしました。

7時になると上述のように、プロ歌手5人、ピアノ1人、ヴァイオリン1人による歌曲の演奏が始まりました。大半の卒業生に懐かしい「朧月夜」、「浜辺の歌」(いずれも小学校唱歌)、女性歌手のソプラノソロ、男性歌手のテノールソロと「闘牛士の歌」のコーラス、ヴァイオリンの「チゴイネルワイゼン」のソロ演奏が披露され、最後は「乾杯の歌」で会場の雰囲気は大いに盛り上がりしました。懇談はこのあと40分も続き、午後8時に懇親会を終わり、それぞれ再会を約して会場を後にしました。



関東同窓会の大先輩のお歴々です。

【秋田県支部】

支部長 月澤 雄一 (S18 獣医)

あれから早や60年の時が過ぎ去ったのかと思う度に、創設期の母校の情景が次々と眼に浮かんできます。

同窓会秋田支部のルーツをさかのぼれば、母校創設からさほど遠くない歴史を持っているように思っています。すなわち、秋田支部の前身、自称「帯広畜産大学秋田県同窓会」は、昭和23～24年頃から盛んな活動を開始していたように記憶しております。

というのは、故瀧名重海教授(家畜生理学昭和16～46年秋田県出身)が学会出席の折の上京の往復路、秋田に立ち寄られる機会を逃さず同窓会を開催してきたわけで、まだ小人数であったが同窓の絆は固く、先生を囲んで盃を重ねては懐古談に花を咲かせたことをなつかしく思い出すものであります。

その後も恒例行事となった秋田県同窓会は隣県との合同同窓会にまで拡大して行ったこともありましたが、母校同窓会本部のリードで、平成6年改めて秋田県支部の正式発足となって、現在会員42名の所帯で毎年総会を開催しております。

この度の母校60周年記念行事のことや大学の再編整備の情報等も含めて6月に開催予定でしたが会場等の事情もあって不発に終わってしまい今秋に延期することになりました。昨年の秋の総会は県南部の温泉で松茸づくしの同窓会でしたが、今秋は、支部長の勇退、若返り人事案件を含めて県中央部で母校の60周年記念行事後に開催する予定です。一期会(昭和18年卒クラス会)も10月5日～7日の予定で帯広市のふく井ホテルと然別湖畔で開催されます。最後のクラス会となるでしょうが母校の60周年記念行事と共

に十勝の青春を甦らせてくれるものと期待して参加を予定しております。時代の変革の波の中で母校も大きく揺れていますが、ひたすらに母校と同窓会の繁栄を祈ってやみません。公私混同の支部便りとなり恐縮です御容赦を。

【ブラジル支部】(バンタナールにて・・・思う)

服部 敏也 (S59 生産)

1985年ブラジルに移住したころ、牛肉の筋線維が常識的な咀嚼では切断されないことに仰天した。畜大での畜肉利用学の講義で左先生から、おいしい肉の条件は柔らかくてジューシーであること、と教えられていた私としては、その肉を「おいしくない肉」と判断するしかなかった。

アメリカにおける屠殺適齢が12ヶ月、日本では「サシ」を入れるために15ヶ月齢まで待つというふうには私は教えられたが、粗放飼養が基本だった当時のブラジルでは屠殺年齢の目安としては4年というのが常識だったから無理もない。1994年、ハイパーインフレ撲滅のためのショック経済療法により、「生産効率」という言葉がブラジル人の辞書に登場したのだが、それまで牛が太るのを待っていた畜産家達はこぞって回転の速い飼育体制を導入することになった。それでも一般的な仕上げ目標は24ヶ月齢である。

私の住む南マットグロッソ州では肉用牛が2千4百万頭飼育されており全国一である。また、ブラジルの輸出向け牛肉の約40%をまかなっている。州の面積は日本ほどもあり、そのうちの北海道ほどの面積がしかるべき時期には世界最大の湿原と化す、有名な世界遺産、バンタナールである。ここには世界最大のインコ、スミレコンゴウインコだの、鮮紅色の巨大なくちばしをもつオニオオハシだのをはじめ、約700種もの鳥類が生息している野生の王国であるが、しかるべき時期には天然の大草原ともなるので、肉用牛の飼育にも利用され絶妙な調和を見せながら見事に共存している。ブラジル全国どこでもそうだが、天然、人工を問わず、肉用牛は広大な草地で飼育されるのが基本で、それが畜産家の誇りでありセールスポイントである。食肉加工廃棄物を大量に用いた人工飼料に頼る必要がなく、そのために狂牛病に脅えるヨーロッパの畜産家からは羨望的となっている。しかしそれよりも何よりも、広大な草地を自由に歩き回ることによって保証される適度の運動が、本格的な「牛」としての肉質を形成するのに決定的に影響している。さらに、ストレスフリーが生み出す精神的作用も計り知れないものがある。

牛が反芻する際の平均咀嚼回数は48回であると、家畜管理学の新生先生に教わったが、牛肉狂のブラジル人好みの二等肉をかんんでいるとついつい長くなるので様々なことを考えることができる。うまい肉とは？真理は万人に知られることを望んでいるのに、狭い戸口から入らないとそれを知ることができない。草原に点在する牛たちの表情が、幸福に満ちているように見えるのは私だけだろうか。

【新潟県支部】

会長 小林 悦夫 (S32 獣医)

ここ新潟も、今はうっとうしい梅雨の真っ盛りで、梅雨明けが待ち遠しいこの頃です。新潟県支部では、昨年の11月25日に新潟県同窓会を新潟市で開催しましたが、当日は飛び石連休の谷間で出席者が少なく13名でした。そのとき話題になったのが、平成13年は母校創立60周年ということで、まだ計画段階でしたが、いろいろの記念行事についてどう協力するかを主に話し合いました。その後は恒例により会員相互の親睦を深めました。このたびの創立60周年記念行事の一つとして、「帯広畜産大学追遠歌」の歌碑が建立されることと、新潟県支部には、追遠歌の作詞者 名畑武男 (S22 獣専) 大先輩がご健在ですので、ご本人はじめ支部会員ともども喜んでおります。記念式典、追遠歌碑除幕式等の記念行事には、支部会員有志多数で参加の予定です。[事務局 佐藤 将典 (S46 獣医)]

【総会の開催案内】

平成 13 年 7 月吉日

帯広畜産大学同窓会会員各位

帯広畜産大学同窓会長 吉川 睦夫

母校創立 60 周年記念式典（11 時開催）に先立ちまして、平成 13 年度の帯広畜産大学同窓会総会を下記の要領で開催いたします。会員各位の出席をお願い申し上げます。

記

日時：平成 13 年 10 月 6 日（土曜日）午前 10 時より

場所：帯広畜産大学講堂

議題：1）平成 12 年度事業報告

2）平成 12 年度会計報告

3）平成 12 年度監査報告

4）役員改選

5）平成 13 年度事業計画

6）平成 13 年度予算案

7）その他

以上

記念式典の前に、総会へのご出席をお願いします。

【平成 11 年度会計報告】

〔通常会計〕（平成 11 年 10 月 1 日～平成 12 年 9 月 30 日）

収入の部

項 目	H11 予算額	H11 決算額	備 考
前年度繰越金	3,618,410	3,618,410	平成 10 年度より
名簿販売	30,000	14,860	名簿 5 冊
協賛金・終身会費	5,500,000	10,640,000	協賛金 195 人、終身会費 674 人
雑収入	50,000	1,692	預金利子
合 計	9,198,410	14,274,962	

支出の部

項 目	H11 予算額	H11 決算額	備 考
印刷代	1,000,000	825,301	会報、葉書など
大学後援経費	400,000	300,000	奨学寄付：20 万円、後援会：10 万円
通信、郵送料	1,500,000	840,609	名簿、会報の発送、料金受取人払
人件費	400,000	210,600	各種アルバイト代
振替手数料	70,000	142,470	郵便振込料金等
事務費	1,000,000	35,224	事務用品、コピー代
会議費	500,000	169,728	事務局会議、役員会
交通費	500,000	180,000	会議旅費、交通費
役員手当	150,000	123,507	15 名分
記念品代	450,000	252,000	キーホルダー（250 個）
二重払い払戻	0	260,000	26 人
特別会計へ	0	5,000,000	定額貯金
予備費	3,228,410	315,000	同窓会ホームページデザイン料
雑費	0	15,392	葬儀献花、弔電
合 計	9,198,410	8,669,831	

次年度繰越金

(5,605,131 円)

【特別会計】

収入の部

項 目	H11 予算額	H11 決算額	備 考
前年度繰越金	10,000,402	10,000,402	平成 8 年度より設定
一般会計から	0	5,000,000	定額貯金
合 計	15,000,402	15,000,402	

支出の部

項 目	H11 予算額	H11 決算額	備 考
なし	0	0	
合 計	0	0	次年度へ繰り越し：15,000,402 円

【平成 12 年度予算案】

〔通常会計〕（平成 12 年 10 月 1 日～平成 13 年 9 月 30 日）

収入の部

項 目	H12 予算額	H11 決算額	備 考
前年度繰越金	5,605,131	3,618,410	平成 11 年度より
名簿販売	1,500,000	14,860	名簿 + 広告代
協賛金・終身会費	4,500,000	10,640,000	協：20,000 円 × 200、終：10,000 円 × 50
雑収入	5,000	1,692	預金利子ほか
合 計	11,610,131	14,274,962	

支出の部

項 目	H12 予算額	H11 決算額	備 考
印刷代	4,500,000	825,301	名簿、会報の印刷ほか
大学後援経費	400,000	300,000	学術交流支援、後援会賛助会費ほか
通信、郵送料	1,500,000	840,609	会報等の発送、料金受取人払
人件費	400,000	210,600	各種アルバイト代
振替手数料	70,000	142,470	郵便振込料金等
事務費	100,000	35,224	事務用品、コピー代等
会議費	200,000	169,728	事務局会議、役員会、総会ほか
交通費	200,000	180,000	会議旅費、交通費
役員手当	150,000	123,507	15 名分
記念品代	200,000	252,000	キーホルダー（180）
二重払い払戻	50,000	260,000	
特別会計へ	0	5,000,000	
予備費	3,820,131	315,000	60 周年記念事業費ほか
雑費	20,000	15,392	慶弔電報ほか
合 計	11,610,131	8,669,831	

【特別会計】

収入の部

項 目	H12 予算額	H11 決算額	備 考
前年度繰越金	15,000,402	15,000,402	平成 8 年度より設定
合 計	15,000,402	15,000,402	

支出の部

項 目	H12 予算額	H11 決算額	備 考
	0	0	
合 計	0	0	次年度へ繰り越し：15,000,402 円

【平成12年度事業報告】

(平成12年10月～平成13年9月)

- 平成12年10月3日 同窓会報(第7号)、名簿頒布案内および60周年記念事業協賛金納入願いを発送
10月19日 3年次編入学および大学院合格者へ協賛金納入願いを発送
12月6日 平成12年版同窓会名簿の発送
12月16日 学部推薦入学I合格者に協賛金納入願いを発送
12月21日 別科推薦入学者に協賛金納入願いを発送
12月25日 畜大便りを各支部へ発送
平成13年1月13日 役員会
1月15日 60周年記念事業実行委員会(第3回)
2月8日 推薦入学II、大学院、帰国子女および社会人特別選抜合格者へ協賛金納入願いを発送
3月5日 学部前期および別科合格者へ協賛金納入願いを発送
3月12日 卒業および修了予定者に終身会費納入願いを配布
3月21日 学部後期合格者へ協賛金納入願いを発送
5月1日 畜大便りを各支部へ発送
5月7日 60周年記念事業実行委員会(第4回)
5月20日 各支部へ会報の原稿依頼および60周年記念式典・祝賀会への招待状を発送
5月31日 歴代学長および名誉教授に記念誌の原稿依頼と記念事業への招待(案内)状を発送
9月上旬 60周年記念事業実行委員会(第5回)および代議員会開催(予定)

【平成13年度事業計画(案)】

(平成13年10月～平成14年9月)

- 平成13年10月中旬 3年次編入学および大学院合格者へ協賛金納入願いを発送
11月上旬 第1回役員会
12月中旬 別科推薦入学合格者に協賛金納入願いを発送
12月下旬 畜大便りを各支部へ発送
平成14年2月上旬 推薦入学A、B、大学院、帰国子女および社会人特別選抜合格者へ協賛金納入願いを発送
3月上旬 学部前期および別科合格者へ協賛金納入願いを発送
3月中旬 卒業および修了予定者に終身会費納入願いを配布
3月21日 卒業式(会長祝辞)
3月下旬 学部後期合格者へ協賛金納入願いを発送
4月中旬 畜大便りを各支部へ発送
5月中旬 平成12年度第1回代議員会
8月下旬 畜大便りを各支部へ発送
9月中旬 同窓会報、名簿頒布案内の発送

【終身会費納入のお願い】

会計 手塚 雅文(S60生産)

このお願いを始めて多くの会員の方々から終身会費の納入をいただき感謝申し上げます。のご案内は今回だけにさせていただきますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

協賛金は平成5年4月入学時に1万円いただき始めたもので、卒業または修了時に終身会費に振り替わることになっております。この制度の導入により、終身会費の納入率が高まり、同窓会の財政基盤が少しづつ確立し、本会の目的の一つである母校の後援も少額ではありますが出来るようになってまいりました。しかし、近年、その納入率が低下し、その対策に苦慮しております。

会則(第25条)では卒業または修了時に終身会費2万円を速やかに納入する事になっておりますので、未納の会員の方は振替用紙を用いて(通信欄に終身会費納入とご記入下さい)自己申告で終身会費の納入をお願い申し上げます。

平成9年10月の総会で協賛金を2万円に増額する案が承認されましたので、平成10年入学者より2万円の協賛金をいただいております。そこで終身会費も2万円になる次第です。平成10年入学者が修了又は卒業される年は、(別科では修学年限が2年ですから平成12年4月からすでに2万円になっています)獣医学科以外の学科を卒業の方は平成14年4月から、獣医学科の卒業生は平成16年から終身会費が2万円になります。納入をより確実にするために、納入者には名簿に納入済み等と記載することを検討中です。どうか、終身会費未納の方は値上がりする前に1万円を納入いただきたくお願いいたします。

【支部会結成のお願い】

現在までに25支部が結成されましたが、まだ全国を網羅するまでには至っておりません。全ての地域に支部の結成を重ねてお願い申し上げます。60周年の記念式典・祝賀会兼総会には各支部の代表に出席のための旅費の実費支援を実行委員会で決定しました。全国の支部の代表者が一堂に会することが出来ますことを楽しみにしております。

以下に既設の支部名と支部長、会長または事務局などの代表者とその電話番号を括弧内に敬称略で示します。転勤や就職などで新しいところに転居された方は本部に住所変更を報告されると同時に、下記の各支部にご連絡ください。

ブラジル支部(代表:小笠原 義元)、同窓十勝会(会長:高田 薫☎0155-47-5291)、芽室支部(会長:村瀬 洋一☎0155-62-4578)、釧路支部(会長:石沢 友男☎0153-52-2875)、富良野支部(会長:中根 正彦☎0167-23-2027)、札幌支部(会長:毛利 正秀☎011-386-5034)、恵庭支部(会長:藤岡 登☎0123-33-8993)、函館支部(会長:浅利 俊吉☎0138-51-7225)、青森県支部(支部長:諏訪内 博之☎017-787-2105)、秋田県支部(月澤 雄一☎018-839-6697)、山形県支部(支部長:三瓶(旧姓井上) 俊美☎0238-43-3515)、宮城県支部(佐々木 敬功☎022-245-4654)、関東同窓会(会長:森田 貞公☎045-823-1291)、新潟県支部(会長:小林 悦夫☎0254-26-3837)、福井県支部(会長:寺本 賢☎0776-66-0262)、滋賀県支部(会長:須藤 正之☎077-524-1790)、岐阜県支部(松野 繁雄☎0557-33-3577)、三重県支部(事務局長:東原 信幸☎059-293-2967)、大阪府支部(会長:金谷 一夫☎06-6531-2135)、兵庫県支部(庶務:長谷川 隆一☎078-914-2878)、鳥取県支部(支部長:朽木 廣☎0859-33-6778)、島根県支部(会長:乗本 吉郎;庶務:川津 章弘☎0854-45-2510)、広島県支部(会長:橋本 秀夫;庶務:菊川 洋一☎082-843-6915)、愛媛県支部(副会長:横山 政市☎0897-41-4196)、九州支部(会長:深田 泰三☎092-781-4716)。

各支部のご活躍を祈念します。(新しく支部を結成されましたらすぐに事務局へお知らせ下さい。各支部には母校の学生部の定期刊行物である「畜大便り」を、母校の情報として送らせていただいております。)

【同窓会員の住所等の整備について】

同窓会名簿編集委員長 三上 正幸(S40酪農)

平成10年より同窓会名簿は隔年発行となり、今年は名簿を発行しない年に当たります。しかし、同窓会名簿の整備は絶えず行っています。訂正・確認につきましては、本人からの連絡が一番信頼できるものです。同封された宛先の裏面に、名簿に記載されている内容を印刷してあります。内容に誤りがありましたら、赤ペンで訂正して、投函して下さいよう、お願い申し上げます。

また、最近、名簿に住所等を記載しないでほしい旨のご希

望もあります。何かの都合により記載を希望されない方は、お知らせ下さい。

同窓会のホームページ

<http://www.obihiro.ac.jp/~dousou/>



このような同窓会のホームページを大学のホームページの中に開設いたしました。勿論、カラーですが、ここでは白黒で示します。<http://www.obihiro.ac.jp/~dousou/> に一度アクセスしてみてください。

このホームページでは上の図の下の会報をクリックすると、既刊の同窓会報のすべてを読むことが出来ますし、会則や事務局からのお知らせも掲載されております。また会員の住所変更なども同窓会報に同封の葉書や会員名簿に添付されている葉書を使わなくても住所変更の画面に直接入力できるようになっておりますのでご活用ください。葉書は受取人払いになっておりますので経費がかかりますが、ホームページからの変更届は経費がかかりませんので事務局は助かります。宜しくお願いします。

クラス会や支部会などの開催案内などにもご活用ください。

また、同窓会へのご意見なども遠慮なくお寄せください。

帯広畜産大学同窓会十勝会役員会開催案内

会長 高田 薫 (S31 総農)

十勝会では下記の要領で役員会を開催いたします。
万障お繰り合わせの上、ご出席をお願いします。

記

日時：平成 13 年 10 月 6 日 (土) 9 時 30 分

場所：帯広畜産大学学部棟第 1 会議室

(正門から入って突き当たりの 3 階建ての学部棟で正面玄関から二階に上がり北側左手の最初の部屋です。張り紙をしておきます。)

議題：1. 事業等の中間報告

2. 今後の事業等の進め方について

3. その他

以上

編集後記

皆様におかれましては、それぞれの分野で御活躍のこととお慶び申し上げます。母校創立 60 周年記念事業のために同窓会報第 8 号を例年より早くお届けいたします。

事務局を務めてまいりました、同窓会名簿編集委員の三上正幸、庶務の石橋憲一、会計の松田清明および事務局長の山田純三(同窓会報の編集者)と一緒に退任させていただきました。皆様のご支援のおかげを持ちまして同窓会活動も軌道に乗りましたし、財政基盤も整ってまいりました。8 年間努めてまいりましたので、これ以上職を続けることはマンネリ化に繋がると考え、4 人で相談し決心いたしました。新しい事務局で還暦を迎えました母校の同窓会の新たな発展を目指していただきたいと存じます。これまでのご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

小泉内閣の「骨太の構造改革」で、母校には単科大学の統合・再編というものすごい津波が押し寄せています。新しい事務局は総会で決定し発足いたしますが、この厳しい時期でありますので、私どもに倍する事務局にご支援とご協力をお願い申し上げます。(平成 13 年 7 月 15 日)

**皆さん、来る 10 月 6 日 (土)、
母校へ是非お越し下さい！**

**新しい校旗の下、道選歌の歌碑の周りで、
作詞者および作曲者の先輩と共に
杯を交わし、道選歌を合唱しましょう！**

柏の下に露汲みて・・・・・・・・・・・・・・・・

**60 周年記念事業への協賛金をお忘れなく！
同窓生の力で成功させましょう！**

(詳細は裏面をご覧ください。事務局からの最後のお願いです。)



母校も還暦を迎えました。 皆さん！母校の還暦を一緒にお祝いしましょう！

先の号でご案内いたしましたように創立 60 周年記念事業を行いますが、その内容が決定し着々と実施へ向けて作業を進めておりますので、その記念事業の内容を下記にご案内を申し上げますとともに、事業実施のための献金が大きく不足しておりますので、未納の会員の皆様にご献金をお願いいたします。

※ 日 程 ※

10 月 5 日（金）13：30～16：00

記念講演会（学生向け）（講堂）

講 師：

山口 守 氏（オハイオ州立大学教授、S41 酪農）

予定演題：アメリカの大学—日本とは何が違うのか。

在米 30 年、日本人 Professor の目を通して

小林 公正 氏（カルビス株式会社取締役会長、S33 獣医）

予定演題：ライフサイエンスの時代に皆さんに期待すること

10 月 6 日（土）11：00～17：00

記念式典（講堂）

記念講演会（記念式典終了後）

講 師：

山口 義弘 氏（北農中央会副会長、S40 別科）

予定演題：21 世紀北海道農業の展望

逍遙歌歌碑除幕式（生協前広場東側）（講演会終了後）

記念祝賀会（生協食堂）（除幕式終了後、14 時頃を予定）

※ 祝賀会開催要領 ※

日 時：10 月 6 日逍遙歌歌碑の除幕式終了後、祝賀会へ移行します。大体 2 時頃を予定しております。

場 所：生協食堂を予定しておりますが、参加者の数が 250 名を越えましたら外にテントを張り実施することなどを考えております。

会 費：3,000 円、同封の振込用紙でお申し込みください。この送金と同封の葉書で出席を確認させていただきます。領収書は発行しませんので払込票兼受領書を保管ください。ご同伴者がおられます場合には人数分を納入ください。（クラス会など団体で申し込まれるところがありましたら、8 月中に事務局 e-mail: jyamada@obihiro.ac.jp ☎ 0155-49-5350、不在時は FAX と留守番電話 49-5354 で山田までご連絡ください。）

締切日：8 月末日（準備の都合がありますので厳守ください）

お願い：出席の葉書は出席の方だけご投函ください。欠席の方はどうか投函しないでください。お願いします。

☆ 記念事業の主たる内容 ☆

- 1) 逍遙歌歌碑の建立：
逍遙歌の歌碑を建立し、名畑武男氏（逍遙歌作詞者）、小野基雄氏（逍遙歌作曲者）を招待して、除幕式を行う。（生協前庭の東側に設置予定）
- 2) 校旗の製作：
帯広畜産大学校旗を作製し、記念式典にて贈呈する。
- 3) 記念誌（60 年のあゆみ）の発刊：
学長、同窓会会長、歴代学長、後援会会長等から祝辞、名誉教授からのメッセージ、50 年以降の沿革を掲載する。記念式典出席者及び献金をいただいた方々に配付する。
- 4) 記念講演会の開催：
上記のごとく、同窓生 3 氏の講演会を開催いたします。
- 5) エコーはがきの作製：
記念品として 5 万枚を作製し、記念式典などの出席者及び協賛金をご献金いただいた方々に配付する。
- 6) 同窓会のホームページを開設：
すでに先取りで昨年より開設しました。

60 周年記念事業協賛金ご献金のお願い

昨年お願いしましたときは 3,000 万円の計画でしたが、今年現在までにご献金いただきました総額は約 600 万円弱でございます。そこで予算規模を 3 分の 1 に縮小して 1,000 万円で前記のような事業計画を立て直しましたが、まだ 400 万円の不足です。同窓生数は 1 万人を超えておりますが、残念ながらその約 5 % の会員からしかご支援をいただいております。そこで、未納の方々に重ねてご献金をお願いする次第です。創立 60 周年記念事業にご理解とご支援をお願い申し上げます。

¥ ご 献 金 要 領 ¥

献 金 額：一口 1 万円（何口でも結構です）

献金方法：同封の振替用紙でご送金ください

締め切り：8 月末日

宜しくお願いします。